

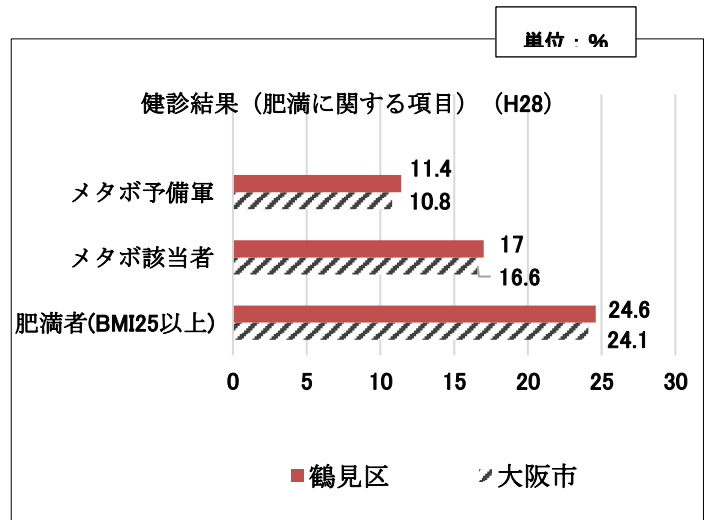
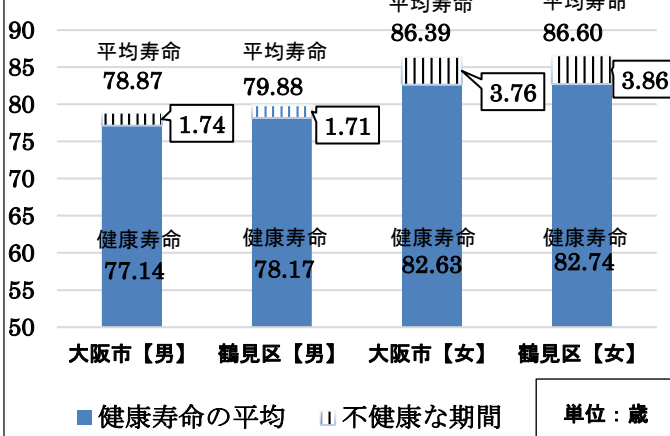
健康で安心して暮らせるまちづくり

【めざす状態】

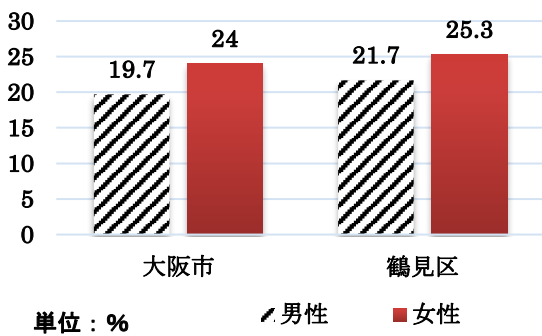
だれもが住み慣れた地域で、健康で自分らしく安心して暮らし続けられる。

【区の現状】

H27平均寿命と健康寿命

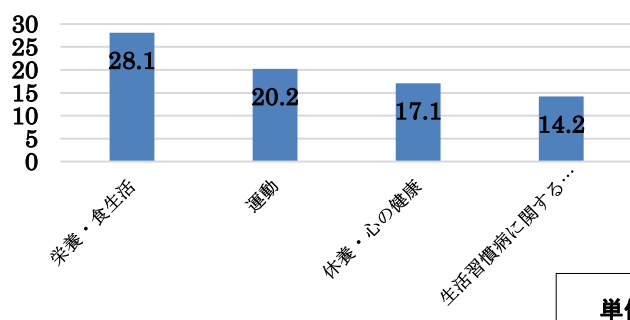


特定健診受診率 (H28)
国民健康保険に加入 (40~74歳)

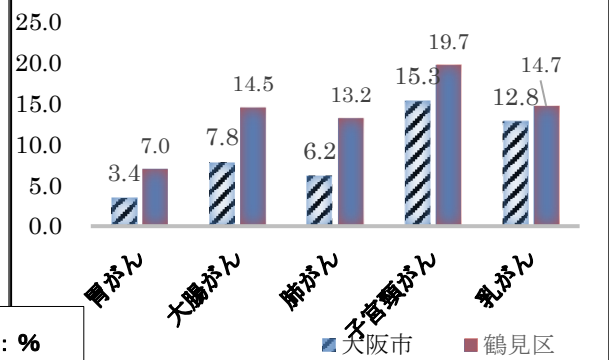


- 健康でない期間が鶴見区の場合男性 1.71 歳、女性は 3.86 歳
- 健診、検診受診率は大阪市平均より高い
- メタボ (内臓脂肪症候群) が多く、肥満者も大阪市平均より高い

健康増進で知りたいこと
(H30区民アンケート)



がん検診受診率 (H29)



課題

健康寿命の延伸には生活習慣病の改善及び早期発見・早期治療が重要な要素であり、その原因となる肥満者やメタボ予備軍を減少させるため、「食生活」の改善や「運動」の動機づけを推進していく必要がある。



具体的取組

●区民の健康保持・増進を促すとともに、関係団体と協働し、運動習慣づくりや食生活の改善など、区民の自主的な健康づくりを進めるため、幅広い年齢層が参加できるイベントを開催するとともに情報発信に取り組む。

◇健康まつり（健康展）&食育フェスタの同時開催

◇ウォーキング教室の開催

◇健康に関する講演会の開催

◇食育に関する調理実習の土日開催

◇がん検診受診率向上に向けた取り組み

◇「栄養・食生活」「運動」「喫煙」など、健康づくりに役立つ情報の発信

住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくり (地域福祉)

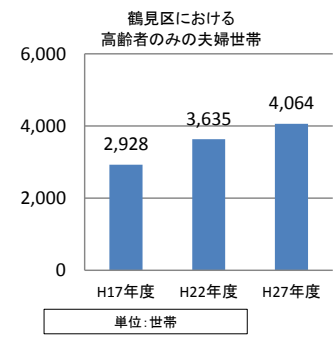
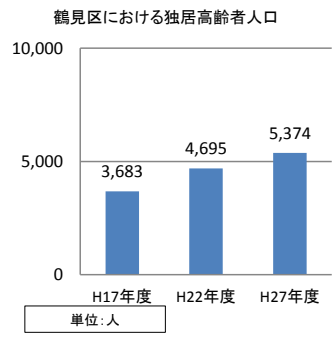
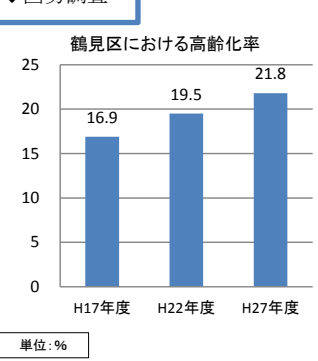
【めざす状態】

だれもが住み慣れた地域で、健康で自分らしく安心して暮らし続けられる地域社会

【区の現状】

- ◆ 団塊の世代が65歳を迎え、鶴見区でも高齢者（65歳以上）や認知症高齢者（65歳以上の認知症を発症している人）が増加してきており、老老介護、孤立死、認知症による徘徊、虐待など、地域の福祉課題は多様化、複雑化、深刻化している。
- ◆ 障がい者手帳の交付数は年々増加している、障がい者への者支援は生活全般にわたるものであり、障がいの種別に応じてニーズも多種多様である。
- ◆ 認知症高齢者を含めた高齢者や障がい者が住み慣れた地域で住み続けるためには、地域福祉活動や地域の見守り活動等の取り組みが必要である。

◆ 国勢調査



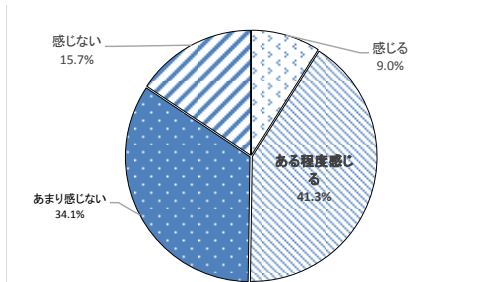
- ◆ 鶴見区認知症高齢者数(平成29年4月1日現在)
- ◆ 鶴見区障がい者手帳交付者数 (平成29年3月31日現在)

◆ 鶴見区認知症高齢者数(平成29年4月1日現在)
◆ 鶴見区障がい者手帳交付者数(平成29年3月31日現在)

	H27年度	H28年度	H29年度
認知症高齢者数 (在宅)	1,307	1,410	1,460
身体障がい者手帳交付数	4,934	5,013	5,097
療育手帳交付者数	1,006	1,039	1,082
精神障がい者保健福祉手帳交付者数	903	955	1,020

◆ H29年度 区民アンケート結果

「声かけ」「見守り」「支え合い」が行われていると感じる鶴見区民の割合



課題

- ◆ 地域福祉ネットワークが効果的に機能し、高齢者や障がい者の相談支援体制が整備され、地域や地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センターなどの関係機関との連携が緊密に図られることなどにより、地域包括ケアシステムの構築にもつなげていく必要がある。
- ◆ 地域で安心して暮らせるよう、高齢者や障がい者に対する正しい理解の普及が必要である。



具体的取組（部会・全体会の意見を反映した取組みを含む）

- 住民主体のネットワーク活動推進事業は開始から3年が経過し、区役所としましては、ネットワーク委員会の開催、「ふれあい喫茶」「子育てサロン」などの既存の活動の定着が進むとともに、新たなアイデアや工夫による事業が生まれ、地域活動の新たな担い手の育成にも寄与しているものと考えております。
本事業を推進するにあたり、地域が主体的に活動できるようにするため、各地域活動協議会の意見や区政会議において意見をいただきながら、地域活動協議会に対する一括補助にむけた検討をしていく。
- 住民主体のネットワーク活動推進事業により、地域での福祉活動の一定の定着が確認できたことから、地域福祉活動に対しての固定した助成を地域がより一層多様な地域福祉活動を行えるよう見直す。
- 地域福祉コーディネーター「つなげ隊」や有償ボランティア派遣制度「あいまち」の活動紹介などを区広報紙やSNS、チラシの配架など積極的に行い、認知度の向上につなげる。

➤ 部会・全体会で委員の皆様からいただいた意見を反映した取組み

地域コミュニティの活性化

～地域活動の活性化と自律的な地域運営の支援～

現状と課題

- ◆ 人と人が直接顔を合わせるコミュニケーションの減少などに加え、生活様式や価値観の多様化などにより、人と人とのつながりが希薄化している。
- ◆ 地域活動を行うスタッフの高齢化や固定化などにより、担い手確保に向けた支援が必要である。



具体的取組（部会・全体会の意見を反映した取組みを含む）

- 人と人とのつながりづくりのための取組みへの支援
 - ◇ 課題に対する対応
 - ・ 「ツルラボ※1」「つるばた会議※2」を開催し、各地域の担い手の交流を図るとともに、参加対象を限定せず広く参加を募り、地域活動に関心のある住民との交流を図っていく。
 - ◇ 30年9月までの主な取組み実績
 - ・ 「ツルラボ」を5・6月（盆踊り・夏祭り・縁日を考察）、8・9月（子ども向け防災学習・訓練を考察）に各地域活動協議会の協力を得て開催した。
- 活動の活性化に向けた支援（地域活動協議会活動の認知度向上に向けた支援）
 - ◇ 課題に対する対応
 - ・ 地域活動協議会の活動内容を紹介するチラシを、人の集まる場所を中心に配布する。
 - ・ TSURUMIC AWARD※3の開催。
 - ◇ 30年9月までの主な取組み実績
 - ・ 各地域で開催された盆踊り・夏祭り・縁日に地域活動協議会の活動内容を紹介したチラシを作成配布した。

● 地域の実態に応じたきめ細やかな支援（派遣型地域公共人材※4の派遣）

◇ 課題に対する対応

- ・派遣型地域公共人材の活用方法の明確化を図り、地域活動協議会に周知し活用を促進する。

◇ 30年9月までの主な取組み実績

- ・派遣型地域公共人材について、区HPに掲載し周知を図った。
- ・地域公共人材の派遣により地域活動協議会への会計支援や防災訓練に対する活動支援、区PTA協議会への広報紙作成支援を行った。

※1 「ツルラボ」とは、鶴見区地域活動研究会の通称名で、地域活動にまつわる事例収集・分析を行い、研究・議論を積み重ね、地域の活動に生かしてもらいたい情報と機会を提供する場で、地域活動への参加の有無を問わず多種多様な人たちが集まるオープンな場。

※2 「つるばた会議」とは、誰でも参加できるまちづくりに関する鶴見区版井戸端会議。

※3 「TSURUMIC AWARD」とは、地域活動協議会やその活動内容の認知度向上及び広報力のアップを目的に実施するコンテスト。

※4 「派遣型地域公共人材」とは、地域活動協議会や自治会、NPOなどの市民活動団体が、自身の力で問題解決できるよう様々な専門知識を持つ人材（地域公共人材）の中からご依頼内容に適した人材を派遣する、大阪市限定の行政サービス。地域公共人材の役割は、団体が自律して活動していけるように、知識やノウハウの提供、会議のファシリテーションなどを行っている。